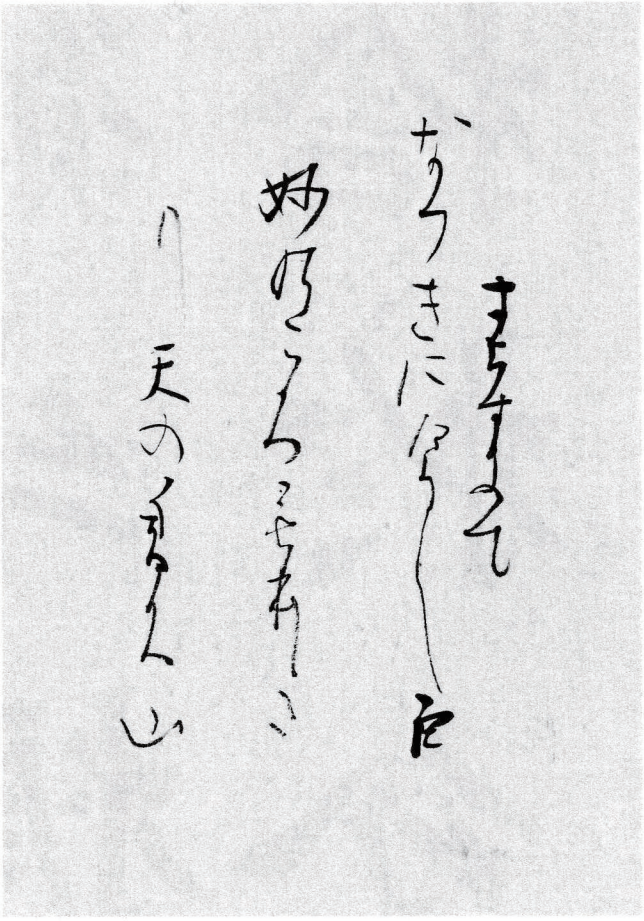
『百人一首』中村素堂先生の仮名散らし書きの魅力（二）

春過ぎて　夏来にけらし　白妙の　衣ほしたり　天の香具山

持統天皇

（持統天皇）
六四五年～七〇二年。第四十一代天皇。天智天皇の第二皇女。天武天皇の皇后。



中村素堂先生の書　大島香菊様提供

〈字母〉

春す支て
なつ きに个ら し　白
妙能ころ毛本し多
り　天の香具山

〈歌意〉

「もう春は過ぎ、夏が来たようだ。夏になると白い衣を干すという香具山に、それが見える。」この歌の原歌は『万葉集』二八番に「春過ぎて夏来るらし　白妙の衣干したり天の香具山」として出ています。

百人一首は、藤原定家が小倉山（京都市右京区嵯峨）の山荘「時雨亭」で選んだとされる「小倉百人一首」のこと。歌はすべて勅選集から選ばれて、ほぼ、時代順に配列されています。

（中村青藍）